

次代のまちづくりプロジェクトチーム 最 終 報 告

10年後の未来を見据えて
将来まちづくりに従事する年代の職員による
将来のためのまちづくりを考える。

平成 21 年 1 月
次代のまちづくりプロジェクトチーム

背景

現在、地方自治体には、国による財政改革と構造改革が行われる中、行政運営のあり方が問われています。また、まちづくりにおいては、人口減少に歯止めをかけるべく、若い世代が働きながら安心して子育てができる「住みやすい町」「働きやすい町」「育ちやすい町」の創造を目指すため、従前の発想から脱却した新しい視点に立った考え方が求められています。

そこで、中堅・若手の職員で「自分が住民としてどんな町に住みたいか」を考え、「どういう方法で」「どのように」取り組むかを提案してもらうということでプロジェクトチームが結成されました。

目的

次代を担う職員が、自分たちが目指す将来に向けて取り組んでおくべき課題を考え、従前の発想から脱却したビジョン戦略型人材の育成を図るとともに、10年後の未来を見据えて将来のまちづくりに従事する年代の職員による将来のためのまちづくりを考える。

取り組み

最初に、取り組むべき課題を明確にするため、制約条件をつけずに町に必要なことが何かということで、ブレインストーミングという手法を用いて様々な意見を抽出し、100の提案となった。

さらに、この100の提案を4つの主要テーマに分類し、また、同時に財政的負担が必要で、今現在実施できないと考えるもの、今実施しても効果が薄いものを分類から分けた。

各テーマの分類内容について、中心的な事業となるもの及びその他提案との関連性を検討し中間報告とした。

中間報告

- ・農産物の販売所を中心とした地産地消の促進
- ・高い成果を上げているエコロジーへの取り組み
- ・地域の主体的で継続的な取り組みによる花を用いた景観の整備
- ・町の独自性の創出と、作るという体験観光による観光の振興

町のイメージアップ・PRを目的に、イメージキャラクターを募集し、全国各地から82点の応募があった。住民からの投票を経て「かきおうじ」を選定した。

最終報告に向けた検討

まちづくりを考えるに当たって、目指すべき方向性として、新たなテーマとして「まちおこし」というキャッチフレーズを決めた。

まちおこしの内容

- ま…学びやすい町
- ち…地産地消の町
- お…訪れたい町
- こ…子どももお年よりも笑顔の町
- し…省エネとエコの町

テーマを基に、町として取り組んでいただきたい企画について、再度検討を試みた。

また併せて、職員数の削減に対して、プロジェクトチームとしても機構改革案を検討し、意見として提出した。

その他、プロジェクトチームで検討した企画：詳細は別紙

- 企画案1 農産物直売所と花の名所で活性化を
- 企画案2 学校の有効利用について
- 企画案3 子育てクーポンの発行
- 企画案4 若い職員の意見を聞いてみよう
- 企画案5 イベント広場だってもっと使って欲しいと思っているぞ
- 企画案6 耕作放棄地の有効活用
- 企画案7 かつらぎ町菜の花プロジェクト
- 企画案8 企画提案会の実施
- 企画案9 口座振替済通知書の廃止
- 企画案10 フレックス制の導入と窓口の年中無休化及び出張役場の検討
- 企画案11 町に愛着をもってもらおう取り組み
- 企画案12 事務の効率化
- 企画案13 バイク・自転車の公用車への導入
- 企画案14 レンタルボックス

企画案 1 5 滞納者へのサービスを一部制限

企画案 1 6 丹生都比売神社周辺の整備について

その他案 地域貢献型自動販売機

ホームページに町民の声を

職員窓口制度について

ペットボトルのキャップを集めて子ども達にワクチンを

財源確保

職員提案の機会を増やす

かつらぎ町と和歌山大学の包括的連携協定

広報を「ぼど」などの無料情報誌と連携させて広告収入で作成してもらうことができないか。

企画の検討の中で、今後の行政運営のためには、職員の意識改革が必要と考え、懇談会を実施した。

懇談会

第1回 平成20年9月8日～平成20年9月12日 延べ21名

第2回 平成20年10月24日 6名

第3回 平成20年11月20日 5名

プロジェクトチームのあり方について

これまで、100の提案や中間報告等が出した様々な提案が、検討されているのかどうかかわからず、意見を出しても、提案内容がそこで止まってしまい、内容を改善したり、発展させたりすることが出来なくなっていました。

また、出てきた意見についても検討してよいのか、悪いのかが分からず、表面的な提案が多くなってしまいました。

今回のプロジェクトチームでの検討は、その繰り返しであり、残念ながら最後には新たな意見を出すことに積極的に取り組むことが出来なくなったため、是非とも改善をお願いしたい。

平成 20 年プロジェクトチームまとめ

初めての事もあり、自分たちの置かれている立場、求められているものが不確かな中でさまざまな意見、提案を出し合いました。

かつらぎ町が存続していくためには、今までの殻を破って飛躍しなければならない、そのためには、まず、町民や町職員にもっと町について関心をもってもらう必要があると思います。イメージキャラクター選定はその一つです。

そして、もっと町職員間のコミュニケーションを密にする必要があり、まず、手始めに 40 歳以下の職員とチームとの懇談会を企画しました。

その間にもさまざまな企画案を出しました。

企画の実現には、関係各課、町民の協力が不可欠であり、そのためには、「部下が上司に自分の意見を伝えることが出来、上司も部下の意見を十分に聞いて、お互いの意見をぶつけあい議論しあえるような関係」が必要です。

また、課と課の関係についても同じことが言え、解決すべき課題に対して、お互いの組織としての枠を超えた議論を行うことが重要です。

職員それぞれがお互いの立場を理解し、異なる意見も大切にしながら「ぶつかりあう。わかりあう。」ということが、新たな発想や魅力的なアイデアを生み、かつらぎ町の活性化につながると考えます。

プロジェクトチームメンバー

福岡	剛士
澤田	靖子
松本	肇
溝口	善之
斉藤	元春
丹田	美穂
東岡	伊織
西埜	敏房
表谷	正樹

次代のまちづくりプロジェクトチーム会議

月日	内容		
1月4日	第1回	プロジェクトチーム会議	プロジェクトチームについて
1月23日	第2回	プロジェクトチーム会議	ブレインストーミング
2月13日	第3回	プロジェクトチーム会議	ブレインストーミング意見の集計及び分類
2月21日	第4回	提案報告	100提案
2月27日	第5回	プロジェクトチーム会議	提案意見の選別
3月12日	第6回	プロジェクトチーム会議	提案意見の選別
3月26日	第7回	プロジェクトチーム会議	委員会に求められているもの
4月10日	第8回	プロジェクトチーム会議	4本の柱について
4月18日	第9回	プロジェクトチーム会議	イメージキャラクターの募集について
4月28日	第10回	プロジェクトチーム会議	イメージキャラクターの募集について
5月14日	第11回	プロジェクトチーム会議	花の町
5月28日	第11回	プロジェクトチーム会議	中間報告について
6月10日	第12回	プロジェクトチーム会議	中間報告後の取り組み
6月18日	第13回	プロジェクトチーム会議	中間報告最終まとめ
6月25日		中間報告	
7月9日	第14回	プロジェクトチーム会議	中間報告後のテーマについて
7月30日	第15回	プロジェクトチーム会議	機構改革について
8月4日		機構改革案提出	
8月12日	第16回	プロジェクトチーム会議	イメージキャラクターの募集パンフレットについて
8月27日	第17回	プロジェクトチーム会議	企画書と懇談会について
9月8日	第1回	懇談会	テーマ 自由
9月9日			
9月10日			
9月11日			
9月12日			
10月7日	第18回	プロジェクトチーム会議	最終報告と懇談会について
10月24日	第2回	懇談会	機構改革について
11月10日	第19回	プロジェクトチーム会議	最終報告と懇談会について
11月20日	第3回	懇談会	経費削減について
12月24日	第20回	プロジェクトチーム会議	最終報告について